

地域とともに歩む、大規模稲作経営体 ～地域の特性を活かした酒米づくり～

高橋 央（尾花沢市）

1 受賞者の概要

中山間地の特性を活かして酒米の高品質生産に力を入れている。

地域の農業の担い手であるとともに、尾花沢・大石田地区農業士会会長、尾花沢市認定農業者連絡協議会会長、みちのく村山農業協同組合酒米生産部会長などを務める、地域農業のリーダー的存在である。

2 特色ある活動

(1) 中山間地農業の担い手

地域の農地を積極的に受入れ、経営面積は約35haと個人経営としては県内でもトップクラスの大規模稲作経営を行っている。

山間部など条件不利地の農地は転作（牧草、そば）として引き受け、地域の高齢化が進む中、畜産農家やそば組合と連携しながら地域の農地を守っている。

(2) 酒米を主力とした米づくり

中山間地で寒暖差が大きく、黒ボク土の土壌条件という、主食用米を栽培するには不利な条件を克服して、酒米の栽培を拡大し、経営の主力としている。

低温・大風量で乾燥することにより乾燥ムラを抑えることが可能で、タンクの中の酒米を均一に乾燥することのできる「ドライデポ乾燥調製機」を導入して、高品質な酒米生産を行っている。



ドライデポ乾燥調製機

(3) 先駆的な多段乾燥システム

3階建ての乾燥調製施設に、複数の従来型乾燥機及び「ドライデポ」に加え「テンパリングタンク」を組み合わせた多段乾燥システムを構築しており、水分のムラが小さく、均質で胴割れの少ない米に仕上げている。

(4) スマート農業の導入

ドローンによる防除作業の省力化、GPSによる直進アシストを装備したトラクターや田植機による作業の負担軽減、営農支援アプリ「アグリノート」による圃場管理など、スマート農業を積極的に導入している。

(5) 酒米生産者のリーダーとしての活動

みちのく村山農業協同組合酒米生産部会の部会長を務め、部会内にGAP研究会を立ち上げて県版GAPの認証を取得するなど、部会の活動を牽引している。

3 今後の発展方向

分散している農地の集積と集約を進めていくとともに、品質の高い酒米の生産を拡大していく。また、経営を法人化し、持続可能な経営基盤づくりを進めていく。